

観光パンフレットにみる「古都・鎌倉」の都市イメージ

神谷陽太¹・臼井祐輔¹・関戸真紀¹・夏目祥平²

(¹ 愛知教育大学・学, ² 愛知教育大学・院)

I はじめに	IV おわりに
II 対象地域における観光パンフレットの発行主体	
III 「古都・鎌倉」の都市イメージ	

キーワード：観光パンフレット，都市イメージ，古都・鎌倉，神奈川県鎌倉市

I はじめに

1. 研究の背景と目的

鎌倉は奈良・京都に並ぶ古くからの政治の中心地として、また日本初の武家政権「鎌倉幕府」誕生の地として、独自の都市景観・文化を生み出してきた。

1992年、「世界の文化遺産及び自然遺産の保護に関する条約（世界遺産条約）」を批准した日本は、京都・奈良・鎌倉に対し、「古都京都の文化財」「古都奈良の文化財」「古都鎌倉の寺院・神社ほか」という要件で世界遺産登録を目指した。京都と奈良はそれぞれ1994年と1998年に世界文化遺産となった一方で、鎌倉は暫定リスト入りのまま正式登録には至らなかった。その結果、2004年にコンセプトを「古都鎌倉の寺院・寺社ほか」から「武家の古都・鎌倉」に変え、鎌倉は武家都市に新たな世界遺産的・歴史的価値を見出そうとしたのである。その後「武家の都市・鎌倉」として2012年に推薦書が提出されたものの、2013年4月にユネスコの諮問機関イコモス（国際記念物遺跡会議）から「不記載」勧告を受けたことで推薦を取り下げることになった¹⁾。その最たる要因は、都市化が進んだ鎌倉において、武家政権の存在を決定づける物証が乏しいことであつたといわれている（立原2014）。

以上のように、1990年代以降に世界遺産登録運動の渦中におかれるなかで、鎌倉は「古都」としての都市イメージを構築・再構築する必要性に迫られてきた

のである。そして、そうした都市イメージは、当該都市を外部者に情報発信する「観光パンフレット」のなかにも明瞭に表れるものと推察される。そこで本研究は、鎌倉市において発行される観光パンフレットのなかで、「古都・鎌倉」の都市イメージがいかにも表現されているのかを、発行主体の差異にも気をつけながら明らかにしたい。

2. 先行研究

内田（1998：71）は、観光パンフレットを魅力ある観光地としての都市イメージを「コンパクトに、同時に最大限に表現したテキスト」ととらえ、中部地方や中国・四国・九州地方の観光パンフレットに記載された地理的要素を定量的に分析した。その結果、観光パンフレットに表現されている都市イメージには、「自然性」「歴史性」「都市性」の多寡という3つの次元（尺度）があることが明らかになった（内田1998, 2005）。またそうした都市イメージの構成に、地方や県単位での地域差がある点も示唆された。内田による一連の研究は、比較的広いスケールでの都市間比較であつたが、このような定量的分析の考え方は、ある特定都市に存在する複数の観光パンフレットを分析する際にも適用できる。

また、与那国島の離島イメージに着目した浅川・岡野（2008）は、特定の観光パンフレットに記載された全文章をテキスト・マイニング法で定量的に解析した結果、与那国島では主に「自然資源」（海、サンゴ礁、ビーチ等）とドラマのロケ地²⁾といった「文化資源」

に特化したイメージづくりがなされていると結論づけた。

以上の先行研究を踏まえ、本研究では鎌倉市の観光パンフレットにおける地理的要素の記載量を定量的データととらえ、その構成から「古都・鎌倉」の都市イメージを分析することとした。

II 対象地域における観光パンフレットの発行主体

1. 対象地域の概観

神奈川県鎌倉市は南は相模湾に面し、東西北の三方を低い山に囲まれている。こうした自然環境は「天然の要害」とも称され、源頼朝がかの地に初の武家政権となる鎌倉幕府を設置する大きな動機になった³⁾といわれている（松尾 2014）。今日では「三方を山に囲まれた鎌倉」の外側にも市街地は延伸し、自治体の領域も拡大しているが、鎌倉は地域内にいまだ多くの歴史遺跡や神社仏閣を残す「古都」であり、観光客を誘引する人気観光地である。

2. 観光パンフレットの発行主体

本研究で調査期間中（2017年3月7日～8日）に入手した観光パンフレットの発行主体は、大きく分けて①鎌倉市（市民活動部観光商工課）、②公益社団法人鎌倉市観光協会、③民間団体（NPO法人鎌倉ガイド協会、民間企業）の3つである。①観光商工課は、市役所による観光パンフレット『鎌倉』の発行主体である。なお本研究では、現地図書館等での観光パンフレット収集と合わせて、②鎌倉市観光協会ならびに③鎌倉ガイド協会に対して聞き取り調査（2017年3月7日～8日実施）を行った。

(1) 鎌倉市観光協会

鎌倉市の観光振興を推進する鎌倉市観光協会（以下、観光協会）は、およそ480軒の会員（店舗）による会費によって運営されている公益社団法人である。また駐車場の経営、カレンダーやうちわの販売、バックパッカーを含む観光客の荷物を預かる際の収益も運営費に充てているという。

主な活動としては、流鏝馬などを行う鎌倉斎りや、花火大会、薪能といった市の文化イベントをホームページで宣伝することである。また、地域の小学生を流鏝馬に無料で招待したり、校外学習の一環として流鏝馬を小中学校で実演するなどの活動も行っている。これらの活動には、鎌倉の伝統を若い世代の人々にも

知ってもらい、親んでもらうという願いが込められている。

筆者らの聞き取り調査によれば、観光協会は約10年前までは独自の観光パンフレットを製作・販売していたものの、その手間と収支の問題から、現在ではパンフレット製作をやめ、市役所や民間団体発行のパンフレットやチラシを事務所に置くにとどまっているという。したがって、本研究で分析対象とした観光協会発行の観光パンフレット『鎌倉ウォッチング』は、2011年9月のもの（2005年初版の第6版）がもっとも新しい。なお、『かまくら一史蹟の都、えのしまー東洋のマイアミビーチ』（かまくら・えのしま）や『かまふじ』は、観光協会も含む鎌倉藤沢観光協議会による発行である。

(2) NPO法人鎌倉ガイド協会

現在、120人ほどのボランティアガイド会員をもつNPO法人鎌倉ガイド協会（以下、ガイド協会）は1995年頃に設立された団体であり、NPO法人となったのは6～7年前のことであるという。

当ガイド協会の提供するガイドのスタイルには2つのタイプがある。1つは①ガイド協会が独自に提案するコースであり、もう1つは②利用客（修学旅行など）の要望に沿ったコースである。①はさらにA・BコースとCコースに分かれている。A・Bコースでは5～6人のガイド企画委員が一般的な観光地を含めたコースをガイドする一方、Cコースでは5グループに分かれたガイド会員が月ごとに独自のコースを考えるものである。CコースはA・Bよりも独自性の強いコースとなっている。

以上のように、コース内容が常に刷新される①ではコースを示した案内チラシが毎月作成されるものの、インターネットの普及にともなって利用客がホームページなどで情報収集しているため、紙媒体としての観光パンフレットは現在新しいものは作成しておらず、約20年前のパンフレットが使われているという⁴⁾。

III 「古都・鎌倉」の都市イメージ

1. 資料収集と分析方法

本研究で分析に使用する観光パンフレットは形式・内容・サイズ等が様々であり、同一発行主体間においてさえ必ずしも統一されているわけではない。そこで、観光パンフレットに描かれた地理的要素として「スポット」（地名、建造物、道路、施設等）を抽出し、

数値化するにあたり、次のような手続きを設けた。

①観光パンフレットの形式には、内田（1998, 2005）が指摘するのと同様、冊子体になっているもの、折りたたまれた一枚もの、折りたたまれていない一枚ものの3種類があった。本研究ではすべて同列に観光パンフレットとして分析対象にした。

②観光パンフレットの見開き1ページ内に鎌倉市内（一部市外）のスポットがどのくらいの量（文章ないしは図像）で記載されているのかを、見開き1ページ当たりの記載面積比率でポイント化した。すなわち、見開き1ページの全面にわたって特定のスポットが文章ないしは図像によって紹介されているのであれば1ポイント、およそ4分の3ページ（75%）であれば0.75ポイント、2分の1ページ（50%）なら0.5ポイント、4分の1ページ（25%）以下ならば0.25ポイントとなる。

ただし、観光マップのような「地図」そのものについては、地名・施設名に図像（イラストや写真等）が付帯しているスポットのみ、一律0.1ポイントと計上した（すなわち、地名・施設名だけが観光マップ上に書かれていてもポイントには計上されない）。たとえば、見開き4分の1ページ分に紹介があり、同一パンフレット内の観光マップにもイラスト付きで記載のあるスポットは、合計して0.35ポイントと判断される。

③記載のあったスポットを抽出してポイント化した後、それらを内容から判断して「武家の古都鎌倉」「古都鎌倉の寺社」「自然景観」「その他」の4つのカテゴリーに分類した。「その他」の要素に含まれるものは、記念館や博物館、文豪など歴史人物ゆかりの別荘である。なお、本研究では食べ物屋や土産物屋など商売や広告に関わる要素は分析から除外した。

表1 観光パンフレット（鎌倉市発行）に記載されたスポットとその構成

カテゴリー	観光パンフレット名 (発行年月日) スポット	携帯と歩く鎌倉 観光散策マップ 夏号				計
		2005年7月	1996年10月	2002年12月	2016年3月	
武家の古都鎌倉	鶴岡八幡宮		0.50	0.50	1.00	2.00
	計		0.50	0.50	1.00	2.00
古都鎌倉の寺社	建長寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	円覚寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	寿福寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	浄智寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	浄妙寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	高德院	0.35	0.25	0.25	0.25	1.10
	瑞泉寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	長谷寺		0.25	0.25	0.25	0.75
	銭洗弁財天		0.25	0.25	0.25	0.75
	荏柄天神社	0.10				0.10
計		0.45	2.25	2.25	2.25	7.20
自然景観	江の島		0.50			0.50
	源氏山公園					
	由比ヶ浜					
計			0.50			0.50
その他	鎌倉文学館		0.25	0.25	0.25	
	鎌倉国宝館		0.25	0.25	0.25	
	鎌倉芸術館		0.25	0.25		
	鎌倉市川喜多映画記念館				0.25	
	神奈川県立近代美術館		0.25	0.25		
	神奈川県立近代美術館鎌倉別館				0.25	
	鎌倉市鍋木清方記念美術館			0.25	0.25	
	神奈川県立フラワーセンター		0.25	0.25	0.25	
	景観重要建築物		0.25	0.25	0.25	
	六地藏	0.10				
	計		0.10	1.50	1.75	1.75
総計		0.55	4.75	4.50	5.00	14.80

(観光パンフレットより作成)

表2 観光パンフレット（鎌倉市観光協会発行）に記載されたスポットとその構成

カテゴリー	観光パンフレット名 (発行年月日) ＜発行主体＞ スポット	鎌倉ウォッチング	鎌倉ウォッチング	鎌倉ウォッチング*	かまくら・えのしま	かまふじ	計
		鎌倉市観光協会			鎌倉藤沢観光協議会		
		1995年4月	2005年4月	2011年9月	2002年11月	2016年3月	
武家の古都鎌倉	鶴岡八幡宮	0.20	0.50	0.60	0.25	0.25	1.80
	若宮大路		0.10	0.35			0.45
	化粧坂切通		0.10	0.35			0.45
	鎌倉宮	0.10	0.20	0.20			0.50
	計	0.30	0.90	1.50	0.25	0.25	3.20
古都鎌倉の神社	建長寺	0.10	0.30	0.65			1.05
	円覚寺	0.10	0.10	0.20			0.40
	寿福寺	0.10		0.10			0.20
	浄智寺	0.10	0.20	0.20			0.50
	浄妙寺		0.20	0.20			0.40
	高德院（鎌倉大仏）	0.10	0.50	0.75	0.25	0.25	1.85
	瑞泉寺	0.10	0.30	0.20			0.60
	長谷寺	0.10	0.30	0.30			0.70
	光明寺	0.10	0.20	0.20			0.50
	報国寺		0.20	0.20		0.25	0.65
	覚園寺	0.10					0.10
	本覚寺	0.10	0.20	0.20			0.50
	海蔵寺		0.20	0.20			0.40
	成就院		0.10	0.20			0.30
	光則寺	0.10	0.10	0.20			0.40
	妙本寺		0.20	0.20			0.40
	宝戒寺		0.30	0.20			0.50
	東慶寺	0.10	0.20	0.20			0.50
	杉本寺			0.20			0.20
	荏柄天神社		0.20	0.20			0.40
	安国論寺		0.20	0.20			0.40
	長勝寺		0.20	0.20			0.40
	小動神社		0.10	0.10			0.20
	遊行寺					0.25	0.25
	龍口寺					0.25	0.25
	満福寺					0.25	0.25
	妙隆寺	0.10					0.10
安養院	0.10					0.10	
御霊神社	0.10					0.10	
佐助稲荷	0.10					0.10	
葛原岡神社	0.10					0.10	
計	1.70	4.30	5.30	0.25	1.25	12.80	
自然景観	江の島		0.20	0.20	0.50	1.00	1.90
	源氏山公園	0.35					0.35
	新林公園					0.25	0.25
	稲村ヶ崎					0.25	0.25
	計	0.35	0.20	0.20	0.50	1.50	2.75
その他	鎌倉文学館		0.20	0.20		0.25	0.65
	古我邸					0.25	0.25
	計		0.20	0.20		0.50	0.90
総計	2.35	5.60	7.20	1.00	3.50	19.65	

注：*は2005年4月初版の『鎌倉ウォッチング』の第6版である。

（観光パンフレットより作成）

以上に挙げた方法で、観光パンフレットに記載されたスポットを発行主体・媒体ごとにポイントで算出したものが表1～3である。

2. 発行主体別にみた都市イメージ

(1) 市役所発行

表1によれば、市役所発行の観光パンフレットであ

表3 観光パンフレット（民間団体発行）に記載されたスポットとその構成

カテゴリー	観光パンフレット名 (発行年月日) <発行主体>	鎌倉を案内します 約20年前 NPO法人鎌倉ガイド協会	鎌倉・湘南ガイドマップ『旅うらら』 vol.8 Winter 2017年1月 株式会社ルーツ
武家の古都鎌倉	スポット		
	鶴岡八幡宮	0.25	0.30
	若宮大路	0.25	
	計	0.50	0.30
古都鎌倉の寺社	建長寺	0.50	0.10
	円覚寺	0.25	0.10
	寿福寺		0.10
	浄智寺		0.10
	浄妙寺(喜泉庵)(梅)		0.10
	高德院(鎌倉大仏)	0.25	
	瑞泉寺(梅)(池泉庭)		
	長谷寺(梅)		0.10
	光明寺(梅)		
	銭洗弁財天(宇賀福神社)		
	報国寺(竹の庭)(梅)		
	覚園寺		
	本覚寺		
	海蔵寺(梅)		
	成就寺		
	光則寺		
	宝戒寺(梅)		
	東慶寺		
	杉本寺	0.25	
	安国論寺		
	葛原岡神社		
	収玄寺		
	江島神社		
明王院			
来迎寺			
円応寺			
浄光明寺			
極楽寺			
	計	1.25	0.60
自然景観	江の島(岩屋)		0.10
	由比ヶ浜海岸		
	稲村ヶ崎		
	計		0.10
その他	鎌倉文学館		0.10
	鎌倉能舞台		0.10
	サムエル・コッキング苑		
	六地藏		
	計		0.20
	総計	1.75	1.20

る『鎌倉』は、1996年～2016年の20年間ほぼ似かよった紙面構成であったことがうかがえる。一方で『携帯と歩く鎌倉』は観光マップ中心の形態をとっており、各スポットの説明書きが少ないなど、やや異なる性質のものであった。

市役所発行の観光パンフレットの総計ポイントは14.80であり、そのうち「古都鎌倉の寺社」が7.20

(48.6%)と約半数を占め、「武家の古都鎌倉」は2.00(13.5%)に過ぎなかった。自然景観の記載が少なく、博物館や文化施設にまつわるその他のスポットの量が比較的多いという特徴がみられた。

(2) 観光協会発行

観光協会発行の観光パンフレットは、市内の寺社を

表3 観光パンフレット（民間団体発行）に記載されたスポットとその構成

江の島・鎌倉ナビ 2016冬号 2016年12月	江の島・鎌倉ナビ 2017早春号 2017年2月 江ノ島電鉄	おしえて鎌倉② 2017 vol.142 2017年2月 有限会社鎌倉トゥデイ	おしえて鎌倉③ 2017 vol.143 2017年3月	
0.10		0.10	0.10	0.85 0.25
0.10		0.10	0.10	1.10
		0.10	0.10	0.80
		0.10	0.20	0.65
				0.10
		0.10	0.10	0.30
0.20	0.10	0.20	0.30	0.60
		0.10	0.10	0.75
		0.20	0.10	0.30
	0.10	0.10		0.30
		0.10		0.10
	0.10			0.10
		0.20	0.20	0.40
			0.10	0.10
			0.10	0.10
		0.20	0.10	0.30
			0.10	0.10
	0.10			0.10
		0.20		0.20
		0.20	0.10	0.30
				0.25
		0.20		0.20
	0.10			0.10
0.10	0.10			0.10
				0.20
			0.10	0.10
			0.10	0.10
			0.10	0.10
	0.10		0.10	0.20
0.30	0.80	2.00	2.10	7.05
0.10	0.10			0.30
	0.10			0.10
	0.20			0.20
0.10	0.40			0.60
0.10				0.20
				0.10
0.10	0.10			0.20
				0.00
0.20	0.10			0.50
0.70	1.30	2.10	2.20	9.25

(観光パンフレットより作成)

幅広く扱う傾向がある（表2）。特に、『鎌倉ウォッチング』における「古都鎌倉の寺社」の種類や記載量が多く、「武家の古都鎌倉」への言及も市役所発行のものに比べて充実している。反面、自然景観やその他施設への言及が少なく、全体的には「古都・鎌倉」に典型的な「武家」「寺社」イメージがもっともストレートに反映された観光パンフレットだといえる。

なお、個別スポットで突出しているのは、市役所発行の観光パンフレットと同様に鶴岡八幡宮や高德院（鎌倉大仏）、建長寺といった全国的にも知られる寺社である。ただし、鎌倉藤沢観光協議会として発行された観光パンフレットは、相対的に記載量が少なかった。

(3) 民間団体発行

民間団体発行の観光パンフレットにおける記載量には、発行主体によってかなりのばらつきが存在する(表3)。たとえば、『鎌倉を案内します』(ガイド協会発行)には鶴岡八幡宮や若宮大路、建長寺や高德院といった基本的なスポット以外にほとんど詳細な紹介がなく、一方で『おしえて鎌倉』(鎌倉トゥデイ発行)では、観光マップ上に各スポットの文章や図像が記載される形式をとっているため、おのずと寺社の記載量が多くなった⁵⁾。また、『旅うらら』(ルーツ発行)は鶴岡八幡宮や鎌倉五山、江の島といった基本スポットが掲載され、逆に『江の島・鎌倉ナビ』(江ノ島電鉄発行)は江ノ電沿線のスポットを中心とした紙面構成になっているように思われる。

総じていえば、民間団体発行の観光パンフレットは、市役所・観光協会以上に「古都鎌倉の寺社」イメージへの偏りが強く(7.05, 76.2%), それ以外の要素が(鶴岡八幡宮や江の島を除いて)ほとんど脇に追いやられていることが明らかになった。

IV おわりに

IIIで述べた通り、全体的にみれば鎌倉の観光パンフレットでの「武家の古都鎌倉」イメージを構成する地理的要素は、鶴岡八幡宮や若宮大路を除いてはほとんどみられなかった。一方で「古都鎌倉の寺社」イメージの要素はどの発行主体においても豊富に、詳しく扱われている。つまり、鎌倉の観光パンフレットでは「武家」イメージよりも、「寺社」イメージの方が強く表れていることが明らかとなった。

発行主体別にみると、市役所、観光協会、民間団体となるにつれ、観光パンフレットに記載されている寺社の記載量が多くなっていった。これは発行主体による立場の違い、発行意図の違いによるものと推測される。また、3者のなかで武家/寺社の両イメージがもっともバランスよく表現されていた観光パンフレットは、観光協会によるものであった。

しかしながら、いずれの観光パンフレットにおいても「古都鎌倉の寺社」が突出しており、世界遺産登録運動のコンセプトである「武家の古都・鎌倉」が強く反映されたような紙面構成にはなっていなかった。また、発行年次が変わるにつれて、その構成が大きく変化するという様子もみられない。こうした点は、武家政権の存在を決定づける物証が、都市内にあまり残されていないといった鎌倉の窮状をそのまま表している

のかもしれないが、今後世界遺産運動をよりいっそう展開していくことを考慮すれば、観光パンフレットの内容にも世界遺産登録運動をうまく反映させていくことがひとつの課題となるのではないだろうか。

最後に、本研究では2つの課題が残った。1つ目は資料収集についてである。比較的最近発行された観光パンフレットは収集できた一方で、過去に発行されたものについては十分収集することができなかった。そのため、長期間にわたる観光パンフレットの内容の変化についてほとんど分析することができなかった。また、集めることができた観光パンフレットの質量もけっして十分だったとはいえない。2つ目は、観光パンフレットの発行主体の1つである鎌倉市役所への聞き取り調査が行えなかったことである。そのため、3者の立場の違いについて十分に考察することができなかった。いずれも今後の課題としたい。

謝 辞

本研究の作成にあたり、お忙しいなか鎌倉市観光協会ならびにNPO法人鎌倉ガイド協会の方々には聞き取り調査にご協力いただいた。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

注

- 1) 鎌倉市ホームページ「世界遺産登録」(https://www.city.kamakura.kanagawa.jp/sekaiisan/index_02.html) (最終閲覧日: 2017年6月28日)を参照。
- 2) 与那国島は、フジテレビ系列のTVドラマ『Dr. コトー診療所』(2003年放映)のロケ地になっている。
- 3) 近年では、鎌倉が交通の要衝であったこと、そしてそもそも源氏ゆかりの地であったことが幕府地選定の大きな要因といわれている(松尾2014)。
- 4) ガイド協会への聞き取り調査によれば、観光パンフレットの中身は同じままに表紙だけが少しずつ変更されてきたという。
- 5) 『おしえて鎌倉』には、各寺社の庭や梅の花に関する紹介記事がみられるため、結果的に寺社のポイントが多くなっている。

文 献

- 浅川雅美・岡野雅雄 2008. 与那国島の観光パンフレットの訴求内容分析. 湘南フォーラム(文教大学湘南総合研究所紀要) 12: 139-147.
- 内田順文 1998. 中部地方における都市のイメージについて—観光パンフレットを用いた場所イメージの定量的分析の試み—. 国士館大学文学部人文学会紀要 31: 134-121.

- 内田順文 2005. 中国・四国・九州地方における都市の観光イメージについて—観光パンフレットを用いた場所イメージの定量的分析の試み—. 国土館大学地理学報告 13 : 1-16.
- 松尾剛次 2014. 『中世都市鎌倉を歩く—源頼朝から上杉謙信まで—』中公新書.